

主体的・対話的に学び，深めた思考を表現できる児童生徒の育成 ～個に応じた指導と自他を認め合う指導の充実～

十島村立平島小・中学校

1 研究のねらい

本年度は，学校教育目標「豊かな心と高い志をもち，自ら学び，自分らしくたくましく生きる児童生徒を育成する」のもと，標記の研究主題を設定した。その際，様々な社会的要請や教育の動向を踏まえ，個に応じた指導の充実を図り，児童生徒の自己肯定感を育むことができるように，自分のよさや可能性を感じる手立てを講じ，主体的で対話的に学び，深めた思考を表現できる児童生徒を育成することが重要であると考えた。また，これまでの研究において，学習の中で必然性を感じて話し合い活動に取り組む子供が少なく，主体性を高めることが課題としてあげられた。さらに，「自己肯定感の向上」が課題としてあげられたことから，一校一改善事項を，「個をつかみ，認め，伸ばす指導の推進」と設定し，全校体制で「自己肯定感の向上」に向けて取り組んだ。

2 研究の概要

研究主題に迫るために，総合的な学習の時間における授業実践を主軸として研究を推進した。また，その視点として「個に応じた指導」「協働的な学びの中で自他を認め合う指導」「ICTを活用した問題解決的な学習の充実」を3つの柱として取り組んできた。研究授業を通じた授業観察や授業分析から，これまでと比べて「主体性の高まり」や「自己肯定感の向上」，「主体的・対話的に学ぶ」ことが向上していることが明らかになった。

3 研究の内容

研究主題の具現化を図るための研究仮説とその内容について以下に記す。

【研究仮説(1)】
一人ひとりの意見や考えが出やすくなるように，発問や資料を工夫し，個に応じた指導を行うことで，児童生徒の思考力，判断力，表現力等を育成し，主体的に学習に取り組むことができるであろう。 (主な内容) ①発問の工夫 ②資料内容や資料提示方法の工夫 ③児童生徒への声かけのタイミング
【研究仮説(2)】
ペア活動やグループ活動を効果的に実施することで，相手の意見や考えをよく聞き，尊重しつつ，自らの思いを表現し，対話的に学ぶ態度を身に付けることができるであろう。 (主な内容) ①ペア・グループ活動の設定 ②自分の意見を言えることにつながる場の設定
【研究仮説(3)】
効果的に ICT を活用し，問題解決的な学習を充実することで，自ら課題を設定し，協働して情報を収集・整理し，まとめたことを視覚化・焦点化・共有化する中で，児童生徒の思考力，判断力，表現力等の育成を図ることができるであろう。 (主な内容) ①思考ツールの活用 ②タブレットやインターネットを活用した情報収集・選択

4 研究の実際

令和3年9月30日(木)，中学3年生の総合的な学習の時間でTV会議システムを活用して研究公開を行った。単元名は「平島の豊かな自然や伝統文化を再確認し，それらを生かして地域を活性化するために，自分たちにできることを考え，実行しよう」である。平島の活性化に向けてご当地グッズを開発していくために，デザインや価格帯，どのような物にするか等について話し合いながら，「多くの人が納得して購入したくなるご当地グッズとは，どのようなものだろうか」という課題を解決してい

く内容である。以下は、授業において工夫した点である。

(1) 一人ひとりの意見や考えを出やすくするための工夫

どのような発問で、どの資料を用いて考えさせたのか、事前の模擬授業を通して構想したことで、子供たちは主体的・対話的になって学習に取り組む姿が見られた。また、「地域の活性化につながるご当地グッズを製作する」という最終的なゴールを明確にしたことで、共通した課題意識をもちながら意見や考えを表出する姿が多く見られた。さらに、子供たち一人ひとりの学習に取り組む様子を丁寧に見取り、個に応じた指導を取り入れたことで、見通しをもって学習活動に取り組むことができた。



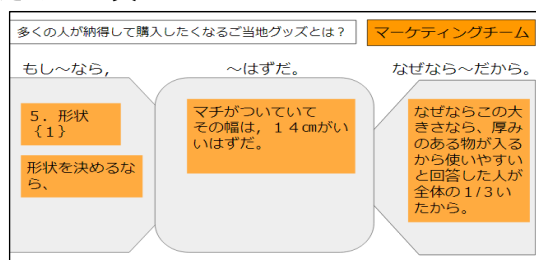
(2) 相手の意見や考えをよく聞き、尊重しつつ、自らの思いを表現し、対話的に学ぶ態度を身に付けるための工夫

学習活動の中で、一斉学習とペア・グループ活動を意図的・計画的に取り入れた。具体的には、「制作チーム」「経理チーム」「マーケティングチーム」に分かれ、探究課題に向けてインタビューしてきたことや体験活動、島民へのアンケート結果等を踏まえてまとめた考えについて、異なる立場で交流する場を設定した。ペア・グループを組む際には、同じ事柄について追究している友達と組むようにした。課題解決に向けて、同じ視点をもって学習活動に取り組むことで、相手の意見や考えに共感しながら聞いたり、自信をもって相手に伝えたりすることができた。



(3) 児童生徒の思考力、判断力、表現力等の育成を図るための工夫

授業実践の中では、「キャンディーチャート」を用いて、根拠を明確にしながらまとめた考えを各グループで発表したり、「ベン図」を用いて各グループで出された考えを比較・分類したりしながら質問し合った。子供たちの考えを整理したり共有したりする中で、ICTや思考ツールを活用した授業を展開することによって、子供たちの意見や考えを視覚化でき、さらに考えを深めるきっかけにもつながった。



5 研究のまとめ

(1) 成果

- 一単位時間の最終的なゴールを明確にしたり個に応じた指導を行ったりしたことで、主体的に学習に取り組むきっかけとなった。
- ペア・グループ活動を効果的に実施することで、対話的に学ぶ態度を育むことができた。
- ICTや思考ツールを活用した問題解決的な学習を展開したことで、深い学びへとつながった。

(2) 課題

- 毎年、児童生徒の実態が異なるため、適切な実態把握を行いながら自己肯定感の向上に向けた取組を継続して行う必要がある。
- ICTや思考ツールを活用する際には、教育的効果を明らかにしながら活用する必要がある。

6 今後の取組

今年度の研究の成果及び課題について、職員研修等を通して全教職員で共通理解を図りながら日々の授業実践に取り組み、未来を担う子供たちの資質・能力を育成するように励む。